

正木照夫の

鉄人の目



内股研究され封じられる

羽賀選手が、得意技の内股を決めたのは初戦だけと、徹底的に封じられました。決め技がかからなければ気が動転し、自信も無くなります。

約1カ月前、NHKが羽賀選手の内股を科学的に検証する番組を放送しました。技の入り方から体の使い方まで、特殊カメラも使って動作を解析し、よくぞここまで調べたものだと思えました。

今回、強豪選手はこの番組を踏まえた

ように内股の防御対策を講じていました。跳ね上げようとするとタイミングをうまくかわしていました。また、腰をうまく引いたり、かがんでみたりと、これまでにない徹底ぶりでした。

柔道を科学的に研究する番組は競技の発展にもつながり歓迎します。しかし、放送時期が問題だと思えます。これを見て研究することが可能だからです。全日本柔道連盟の協力でつくられた番組です

から、もっと配慮が必要だったのではないかと。

3位決定戦で羽賀選手は、内股をフェイントに使う小内刈りで倒し、絞め技で決めました。しかし、本人はこの結果に納得できないでしょう。

梅木選手は、組み手争いで押され、動きも鈍かった。何より攻める姿勢がほとんどなかったのが残念でした。

優勝した米国のハリソン選手は馬力があり、終始元氣あふれるたたかいでした。梅木選手も闘志を前面に出す柔道をしてほしいと思えます。

(拓殖大学柔道師範、八段)

羽賀持ちこたえた銅



柔道

柔道は11日、男女2階級が行われ、男子100kg級の羽賀龍之介(旭化成)は銅メダルでした。ここまで男女12階級で日本メダルは金3、銅7の計10個となり、総数で1992年バルセロナ、2004年アテネ両大会と並ぶ最多となりました

た。

羽賀は準々決勝でルカシユ・クルパレク(チェコ)に指導一つの差で敗れました。敗者復活戦を勝ち上がり、3位決定戦でアルチョム・プロシエニコ(ウクライナ)に一本勝ちしました。優勝はクルパレク。

女子78kg級の梅木真美(環太平洋大)は初戦の2回戦でアビゲール・ヨナー(ハンガリー)に敗れ

ました。ケイラ・ハリソン(米国)が連覇を果たしました。(時事)

羽賀龍之介 目標は金メダルだけだったので、そのモチベーションがなくなってきたときにすぐ苦しかったが、銅メダルでも取れてよかった。どんな形でも勝とうと思っただ。この銅メダルの経験を生かして、また応援してもらえるように頑張りたい。(時事)

ハリソン連覇

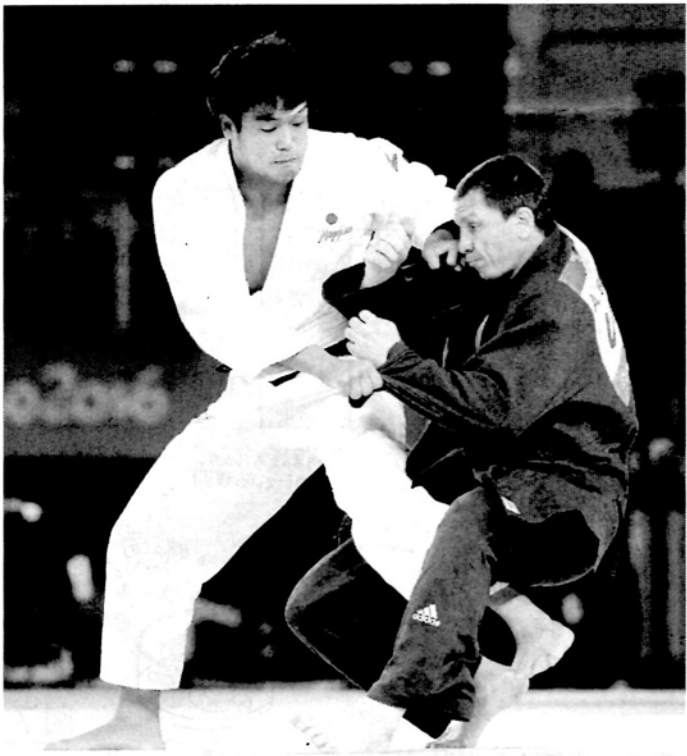
全試合で寝技

▽女子78kg級はハリソンが連覇を飾った。チヌメオとの決勝は多彩な攻めで相手に指導が二つ。ほぼ勝利を手中にした残り6秒、腕ひしぎ十

字固めで一本を奪った。「調子は良くなかった」と言いながら、全4試合を寝技で制する味のある栄冠だった。

前回ロンドン五輪では米国の男女を通じて柔道初の金メダルをもたらした26歳。昨年は大会中に

肩を脱臼するなど、連覇への道は平坦ではなかった。「疲れていても、けがをしていても、コートには常にたたかうよう教えられてきた。だから精神的に強いし、どんな状況にも対応できる」と胸を張った。(時事)



柔道男子100kg級3位決定戦でアロシエンコ(右)を攻める羽賀龍之介(時事)